



生駒市立鹿ノ台中学校 第5号

校長室だより

令和4年9月5日

2学期の始業式から10日ほど過ぎました。夏休み中の生活から、普段の学校生活に身体と心の切り替えがきちんと完了していますか。文化祭・体育大会のためにそれぞれの委員会のみなさんが中心になって、さっそく準備を始めてくれていますね。大きな学校行事の成功に向け、よろしくお祈りします！

2学期のスタートにあたって

【始業式式辞より】

2学期は学校生活が充実する実りの時期です。様々な教育活動が展開され、学校生活に幅と厚みが加わり、素晴らしい思い出を残すことができると思います。文化祭、体育大会、生徒会役員選挙、校外学習などの学校行事や学年行事など多様な活動があるので、みなさん一人一人が自分の得意とするところを大いに発揮してください。そこで、より充実した学校生活とするために、次のような点からみなさんの活躍を期待します。

第一に、**失敗を恐れない**ことです。何事も自分たちの力でやってみることです。とりわけ、初めてやってみることに、失敗はつきものですが、失敗を恐れることなく、挑戦してみましょう。そして、思うようにいかないときは、失敗の原因を考え、よりよいものにするための方法を仲間といっしょに考え合しましょう。

第二に、**日々の努力を惜しまない**ことです。毎日の学校生活で大切なのは、身の回りの小さな行動を大切に、日々努力を惜しまない態度で続けることだと思います。自分たちにできることは何かを考え、それを地道に

実践していく努力があってこそ、はっと目をみはるような成果が得られるはずです。

第三に、**新たな発想を生かす**ことです。行事の中には毎年繰り返されるものも多くあります。前年度までのことを参考にしながら、新たな見通しを立て、工夫・改善を試みてください。いろいろと考えたり、困難にぶつかって悩んだりすることで力量を高めることができます。自分の発言が仲間に影響を与えたり、反対に仲間から受けた言葉で自分の価値観が変わったりすることもあります。新たな発想を積極的に生かすように心がけ、自分たちの力でやり遂げることでできる範囲を広げていってほしいと思います。

「花を咲かせる土」を信じて



フィギュアスケート男子で五輪2連覇を果たした羽生結弦（はにゆうゆづる）さんが、7月にプロ転向を表明しました。羽生さんは9歳の時、ジャンプが一気に全部跳べるようになり、自分が滑りたいスケートができるようになったそうです。「ただ、それまでの練習はすごくすごかつらかった。長く苦しい大変な練習が積み重なったからこそ、その時に努力の結果を一番感じられ、スケートが好きだったし、自信があった」と当時を振り返っています。そして、今の子どもたちへのアドバイスとして、「何事も基礎ができているかが、すごく大きいと思います。本当につまらない練習かもしれないですけど、そのつまらない練習がいずれ、花を咲かせる時の土になることを想像しながら、基礎練習は常にしたほうが良いと思います。僕は今もやっています。」とコメントしています。「何事も」をみなさんの日々の生活に置き換えてみてください。今、自分がつまらなさを感じていることがあるとしても、いつか「花を咲かせる土」になると信じ、基礎固めを続ければ、夢に一步でも近づくことができるのではないのでしょうか。

保護者の皆様へ

平素は本校教育にご支援・ご理解を賜り、誠にありがとうございます。

いよいよ2学期がスタートしました。現在、第7波の終息も見通せず、保護者の皆さまにはご心配をおかけしておりますが、今後も感染症対策をしっかりとしながら、教育活動を継続していきます。保護者の皆様のご協力とご理解をいただきますよう何卒よろしくお願いいたします。